

名古屋東山周辺の昆虫相

II. 甲虫目 (8) オサムシ科, ゴミムシダマシ科など

内 藤 通 孝*

Insect Fauna around Higashiyama in Nagoya
II. Coleoptera (8) Carabidae, Tenebrionidae, etc

Michitaka NAITO

はじめに

「名古屋東山周辺の昆虫相」各論の第8回として、甲虫目のハンミョウ科Cicindelidae, オサムシ科Carabidae, ゲンゴロウ科Dytiscidae, デオキノコムシ科Scaphidiidae, ハネカクシ科Staphylinidae, ナガハナノミ科Ptilodactylidae, ゴミムシダマシ科Tenebrionidae, ハムシダマシ科Lagriidae, クチキムシ科Alleculidae, ナガクチキムシ科Synchroidae, ハナノミ科Mordellidae, カミキリモドキ科Oedemeridae, アリモドキ科Anthicidaeを取り上げる。これらは特に注目して観察・採集してきた分類群ではないので網羅的ではないが、重要な記録も含まれているので、まとめて報告する。

観察記録

分類・学名・和名は原則として、『新訂原色昆虫大圖鑑 第Ⅱ巻（甲虫篇）』¹⁾に依り、一部は『原色日本甲虫図鑑（Ⅱ）』²⁾, 『原色日本甲虫図鑑（Ⅲ）』³⁾を参考にした。古いものは採集し、標本として保管しているものが多い。2002年からはデジタルカメラによる写真記録を原則とし、死骸や種名確認等のやむを得ない場合は標本として保存している。生態写真の撮影および標本の採集・保管については、特に記載のないものは筆者による。

表記は簡略にするため、以下の原則に従った。

例数, 性（雌雄を鑑別した場合のみ♂, ♀の記号を入れた）, 採集（観察）年月（日）, 観察場所（名古屋市を省略）の順に記した。観察年月日は8桁（年月日の場合）または6桁（年月の場合）で示した。また, 飼育した場合には括弧付きで死亡年月（日）を入れた。

例: 「1 ex 19970707 (～19980513) 昭和区八事本町興正寺」であれば, 1例（雌雄区別せず）で, 1997年7月7日に名古屋市昭和区八事本町興正寺の境内で採集し, 飼育下で

* 生活科学部管理栄養学科

1998年5月13日まで生存したことを示している。

体長は、標本の実測値を示し、標本が存在しない種については、括弧内に文献1) による数値を示した。微小種についての実測は概の値である。分布は、名古屋市・愛知県については『愛知県の昆虫 (上)』⁴⁾ を、日本・世界については文献1~3) を参考にした。日本については、北海道・本州・四国・九州に分布するものは「日本」とし、島嶼は省略した。『愛知県の昆虫 (上)』に名古屋市からの記録がない種の学名には*を付した。

1 ハンミョウ科 Cicindelidae

ハンミョウは「斑猫」と書き、斑^{まだら}な猫という意味である。背面に斑模様を持つ種が多いので、この紋様から猫を連想させたのであろう。とくに代表種のハンミョウ *Cicindela chinensis* は色彩豊かである。英語はtiger beetleで、やはり背部の紋様と強大な大顎から来ている。極めて敏捷で、発達した細長い脚で素早く走り、翅も発達していてよく飛ぶ。道を歩いていると、前へ前へと飛んで移動するので、「道教え」、あるいは「道しるべ」ともいわれる。獐猛な狩人で、肉食性が強い。漢方薬で言うところの「斑猫」は、これとは別科のツチハンミョウ科の昆虫である。

1-1 コハンミョウ *Myriochila speculifera*

観察・写真撮影：1 ex 20040624 名東区藤巻町；♂♀ 20050716 昭和区八事本町興正寺 (写真1-1A)；1 ex 20080721 昭和区八事本町興正寺 (写真1-1B)

標本：1 ex 20070805 昭和区八事本町興正寺 (写真1-1C：背面，D：腹面)

体長：12 mm。分布：日本，朝鮮半島

2 オサムシ科 Carabidae

オサムシ (箴虫) の名は、機織り機^{おさ}の箴^むに似ていることに由来する。地表を歩き回って他の小動物を捕食する肉食性で、「歩行虫」とも記し、英語ではground beetleという。昆虫好きであった漫画家の手塚治虫 (1928~1989) の「治虫」はオサムシに由来する。獐猛な種が多く、ファーブル (1823~1915) の昆虫記写真集にも、キンイロオサムシ *Carabus auratus* が、自分よりも大きなマツノキコフキコガネを襲う姿が収められている⁵⁾。オサムシ類の多くは、後翅が退化しており、地理的変異が見られるものが多く、いくつかの亜種に分けられている。これらは種分化の途中にあると考えられる。

2-1 クロカタビロオサムシ *Calosoma maximowicz*

標本：1 ex 20110801 名東区藤巻町 (写真2-1)

体長：29 mm。「黒肩広」オサムシである。カタビロオサムシ類は後翅が発達していて飛ぶことができ、日本国内では亜種に分かれていない。分布：日本，朝鮮半島，東シベリア，中国，台湾

2-2 ミカワオサムシ *Carabus arrowianus*

観察・写真撮影：1 ex 20030705 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20040422 名東区藤巻町

標本：1 ex 19910715 昭和区南山町；1 ex 19980721 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20010610 昭和区八事本町興正寺；2 ex 20080528 千種区平和公園 (一色忍採集)；1 ex 20130509 千種区平和が丘 (一色忍採集) (写真2-2)

体長：27～29 mm。和名は愛知県の三河地方に由来する。7つの亜種に分けられている。餌としてヨコヅナサシガメを与えたところ、すぐにサシガメの腹部を食いちぎったが、サシガメもオサムシの腹板の隙間に口吻を差し込んで毒液を注入して応戦した。しばらくしてオサムシもフラフラになり、死んでしまった。サシガメの毒物が何かは寡聞にして知らないが、神経毒のようである。分布：長野県（天竜川中流域・飛騨川流域）・静岡県（天竜川下流以西）・愛知県・岐阜県・三重県（南部・志摩半島北部）

2-3 マイマイカブリ *Carabus blaptides*

観察・写真撮影：1 ex 20070411 千種区東山公園（死骸）（写真2-3）

体長：(28.5～65 mm)。頭部と首（実際は前胸部）が細長く、頭部をカタツムリに突っ込んで食べるので、和名はマイマイ（舞舞＝カタツムリ）を被る、あるいは齧り付くことから来ている。カタツムリの殻に頭を突っ込んで咬みつき、消化液を注入して融かしてから摂食する。左右の上翅は癒合して開くことができず、後翅は退化しているので飛ぶことはできない。日本固有種で、地理的変異が著しく、7つの亜種に分けられている。交配実験では、近接地域のものはよく交尾・産卵するが、産地が離れるにしたがって産卵、ついで交尾がおこらなくなる¹⁾。分布：日本

2-4 ヨツモンコミズギワゴミムシ *Tachyura laetifica*

標本：1 ex 19770717 瑞穂区春山町；1 ex 19890730 昭和区滝川町（写真2-4）

体長：2 mm。「四紋小水際」ゴミムシであるが、必ずしも「水際」に生息するのではなさそうである。分布：日本、中国

2-5 メダカチビカワゴミムシ *Asaphidion semilucidum*

標本：1 ex 19901127 昭和区滝川町（写真2-5）

体長：4 mm。「メダカ（目高）」の和名の通り、眼球が大きく、突出している。「カワ」の意味は不詳だが、朽木や樹皮化に見られるので、「（樹の）皮」であろう。分布：日本、サハリン、シベリア東部、朝鮮半島、中国

2-6 セアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis*

標本：1 ex 20130708 昭和区滝川町（燈火に飛来）（写真2-6）

体長：18 mm。「背赤平」ゴミムシである。分布：日本、旧北区全域

2-7 アオグロヒラタゴミムシ *Agonum chalconum*

標本：1 ex 19900527 昭和区滝川町；1 ex 19911115 昭和区滝川町（写真2-7）

体長：7.5～8 mm。「青黒平」ゴミムシである。分布：日本、極東ロシア

2-8 アトワアオゴミムシ *Chaenius virgulifer*

標本：1 ex 19920928 昭和区鶴舞町名古屋大学医学部構内；1 ex 19970802 昭和区滝川町（写真2-8）

体長：13 mm。「後輪青」ゴミムシである。前翅の後端に特有の紋を有するが、「輪」にはなっていない。分布：日本、中国

2-9 オオヒラタアトキリゴミムシ *Parena laesipennis**

標本：1 ex 20031026 昭和区八事本町興正寺（ヨコヅナサシガメに捕食されているところを採集）；1 ex 20100808 昭和区滝川町（燈火に飛来）（写真2-9）

体長：10～12 mm。「大平後切」ゴミムシである。「アトキリ（後切）」の名は、前翅の後端が裁断されたように見えることから来ている。『愛知県の昆虫（上）』には尾張地方か

らの記録はない。分布：日本

2-10 クビボソゴミムシ *Galerita orientalis* *

観察・写真撮影：1 ex 20080620 名東区藤巻町（写真2-10）

標本：1 ex 20080604 名東区藤巻町（死骸）

体長：21 mm。『愛知県の昆虫（上）』に名古屋市からの記録はない。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，中国，台湾，インドシナ

3 ゲンゴロウ科 *Dytiscidae*

水生甲虫については，とくに観察・採集はしていないが，偶然飛来した2種について記録しておきたい。

3-1 ヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* *

標本：1 ex 196405 昭和区（写真3-1）

体長：11 mm。『愛知県の昆虫（上）』には名古屋市からの記録はないが，『なごやの昆虫』⁶⁾には紹介されている。分布：日本，朝鮮半島，サハリン，シベリア，台湾，南太平洋域，ヨーロッパ，北アフリカ，オーストラリア

3-2 ハイイロゲンゴロウ *Eletes sticticus* *

標本：1 ♂ 20130704 昭和区滝川町（死骸）（写真3-2）

体長：14 mm。『愛知県の昆虫（上）』に名古屋市からの記録はない。自宅（集合住宅）の階段4階付近で採集した。既に死んでいたが新鮮な状態であった。当日は突風が吹き荒れたので，風で吹き上げられたのかもしれない。分布：日本，朝鮮半島，中国，台湾，インド，ヨーロッパ，北アメリカ，オーストラリア等

4 デオキノコムシ科 *Scaphidiidae*

「デオ」は「出尾」であり，尾端が突出していることから来ている。キノコや腐朽材木に集まる。

4-1 ヤマトデオキノコムシ *Scaphidium japonum* *

標本：1 ex 20050711 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20111016（～20120501）昭和区八事本町興正寺；1 ex 20140523 千種区東山公園（写真4-1）

体長：5～6 mm。類似種からは触角や上翅紋の形態，背面の点刻などによって区別できる。飼育下では成虫で越冬した。『愛知県の昆虫（上）』に名古屋市からの記録はない。分布：日本

5 ハネカクシ科 *Staphylinidae*

ハネカクシ（隠翅虫）の名は，後翅を細かく折りたたんで，小さな前翅の下に格納し，隠しているように見えることに由来する。そのため腹部の大部分が露出しており，一見，アリやハサミムシの仲間のように見える。しかし，大部分の種は，後翅は機能的で，よく飛ぶ。

5-1 アオバアリガタハネカクシ *Paederus fuscipes*

標本：1 ex 20080724 昭和区滝川町（燈火に飛来）（写真5-1）

体長：6 mm。アオバアリガタハネカクシ（青翅蟻形隠翅虫）は，ペデリン（pederin）

を含む体液を分泌し、触ると皮膚炎を生ずる「ヤケドムシ」の代表である。ペデリンの化合物名は属名 *Paederus* に由来する。分布：日本、米大陸を除く世界各地

5-2 アカバハネカクシ *Platydacus brevicornis*

標本：1 ex 20090908 昭和区滝川町（燈火に飛来）（写真5-2）

体長：14 mm。「赤翅隠翅虫」である。分布：日本、朝鮮半島、中国、ロシア

5-3 クロサビイロハネカクシ *Ocypus lewisius**

標本：1 ex 20030808 昭和区滝川町（死骸）（写真5-3）

体長：19 mm。「黒錆色隠翅虫」である。『愛知県の昆虫（上）』に記録はない。分布：本州・四国、中国

5-4 ムネビロハネカクシ *Algon grandicollis*

標本：1 ex 20110810 千種区東山公園（写真5-4）；1 ex 20120505 名東区牧野ヶ池
緑地

体長：11.5～14 mm。「胸広隠翅虫」である。分布：日本、朝鮮半島、中国

6 ナガハナノミ科 *Ptilodactylidae*

「長花蚤」であるが、蚤に似ているわけでもなく、蚤のように跳ねるわけでもない。

6-1 ヒゲナガハナノミ *Paralichas pectinatus*

標本：1 ♂ 20140504 千種区平和公園（写真6-1）

体長：10 mm。分布：本州・四国・九州

7 ゴミムシダマシ科 *Tenebrionidae*

ゴミムシダマシとは、ゴミムシに似て非なるものという意味であるが、外見も余り似ておらず、習性も異なる。ゴミムシ類（オサムシ科）は捕食性で、すばしこく歩き回るのに対し、ゴミムシダマシは、一般に腐食物や菌類等を食べ、動作も緩慢である。

7-1 ゴモクムシダマシ *Blindus japonicus*

標本：1 ex 19920719 昭和区滝川町；1 ex 20140807 名東区藤巻町（写真7-1）

体長：8 mm。ゴモクは芥で、ごみのことである。ゴミムシダマシ科の「ゴモクムシ（これはゴミムシ亜科）」ダマシという変な名前である。分布：本州・四国・九州

7-2 コスナゴミムシダマシ *Gonocephalum coriaceum*

標本：1 ex 20100617 千種区東山公園（写真7-2A）；1 ex 20140708 昭和区滝川町（写真7-2B）

体長：8 mm。コスナは「小さい砂の」で、砂地に生息することから来ている。分布：日本、朝鮮半島、中国、台湾

7-3 モンキゴミムシダマシ *Diaperis lewisi*

標本：1 ex 20100717 千種区東山公園（写真7-3）

体長：6.5 mm。「モンキ（紋黄）」であるが、紋様は赤色である。分布：日本、朝鮮半島、シベリア、中国北部

7-4 ヨツモンツヤゴミムシダマシ *Diaclina plagiata**

標本：1 ex 20090816 昭和区八事本町興正寺（写真7-4）

体長：4 mm。「四紋艶」ゴミムシダマシである。『愛知県の昆虫（上）』に記録はない。

分布：本州・九州，朝鮮半島

7-5 ヨツコブゴミムシダマシ *Uloma bonzica* *

観察・写真撮影：1 ex 20110626 昭和区滝川町（燈火に飛来）（写真7-5A）

標本：1 ex 20090629 千種区東山公園（死骸）；1 ex 20140715 昭和区滝川町（写真7-5B）

体長：10～10.5 mm。「四瘤」ゴミムシダマシである。『愛知県の昆虫（上）』に名古屋市からの記録はない。分布：日本，朝鮮半島

7-6 ガイマイゴミムシダマシ *Alphitobius diaperinus*

標本：3 ex 19900825 昭和区滝川町；1 ex 19910602 昭和区滝川町；1 ex 19921001（～19930819）昭和区滝川町（写真7-6）；1 ex 19951009 昭和区滝川町

体長：5.5～6.5 mm。東アフリカ原産で，1920年代に輸入穀物とともに日本に齎されたと考えられている。和名の「ガイマイ」は，しばしば外米（輸入米）中に見出されたことによる。貯蔵穀物の害虫とされるが，幼虫・成虫ともにイエバエの卵・幼虫・蛹を捕食し，イエバエ防除にも用いられる⁷⁾。分布：本州・四国・九州，世界各地

7-7 オオツヤホソゴミムシダマシ *Menephilus arciscelis* *

標本：1 ♂ 19901004（～19920409）昭和区滝川町⁸⁾；1 ♂ 19910912 昭和区滝川町（写真7-7）

体長：14 mm。飼育により約1年半生存した。『愛知県の昆虫（上）』に記録はないが，1991年に筆者が報告している⁸⁾。分布：本州・四国・九州

7-8 ユミアシゴミムシダマシ *Promethis valgips*

観察・写真撮影：多数 20040501 昭和区八事本町興正寺（写真7-8A：多数の個体が犇めき合って，樹洞に潜んでいる。）；1 ex 20080503 昭和区滝川町（写真7-8B），他多数

標本：1 ex 19910818 昭和区南山町；1 ex 20000903（～20010505）昭和区八事本町興正寺；1 ex 20030314 昭和区八事本町；1 ex 200305 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20030607 昭和区八事本町興正寺；1 ex 200407 昭和区八事本町興正寺（死骸）；1 ex 201007 昭和区滝川町；1 ex 20110916 昭和区滝川町（燈火に飛来）

体長：23～26 mm。「ユミアシ（弓脚）」は前肢の脛節が弓のように撓っていることに由来する。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，中国

7-9 ルリゴミムシダマシ *Derosphaerus subviolaceus* *

観察・写真撮影：1 ex 20080824 昭和区八事本町興正寺（写真7-9A）；多数 20090815 昭和区八事本町興正寺（写真7-9B：多数の個体が樹洞に潜んでいる。）；1 ex 20140728 昭和区滝川町（写真7-9C），他多数

標本：1 ex 19910818 昭和区滝川町（燈火に飛来）；1 ex 20000903 昭和区八事本町興正寺（～200205）；1 ex 200205 昭和区八事本町興正寺（死骸）；1 ex 200305 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20040314 昭和区八事本町興正寺（死骸）；1 ex 20040403 昭和区八事本町興正寺（死骸）；2 ex 20090314 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20101013 千種区星が丘元町（燈火に飛来）

体長：15～18 mm。上翅は黒ないし紫色の光沢を有する。飼育により1年半以上生存し

た。『愛知県の昆虫（上）』に名古屋市からの記録はない。分布：日本，朝鮮半島，中国

7-10 ニジゴミムシダマシ *Tetraphyllus lunuliger*

標本：1 ex 19980720 昭和区滝川町（写真7-10）

体長：6 mm。分布：本州・四国・九州

7-11 キマワリ *Plesiophthalmus nigrocyaneus*

観察・写真撮影：1 ex 20050618 昭和区八事本町興正寺（写真7-11A）

標本：1 ex 196607 昭和区広路町新福寺；1 ex 19910608 昭和区滝川町；1 ex 19910721 瑞穂区春山町；1 ex 20140618 名東区藤巻町（写真7-11B）；1 ex 20140623 名東区藤巻町；1 ex 20140701 千種区星が丘元町（一色忍採集）（写真7-11C）

体長：17～18 mm。キマワリとは，木を回るという意味であり，実際，樹幹を歩き回っているのを見かけることが多い。黒色（写真7-11C）だが，ときに金銅色（写真7-11B）を帯びる。後翅は退化して飛べない。分布：日本，朝鮮半島，サハリン

7-12 クロツヤキマワリ *Plesiophthalmus spectabilis**

標本：1 ex 19910817 昭和区南山町（写真7-12）

体長：18 mm。『愛知県の昆虫（上）』には東三河からの記録のみで，尾張地方からの記録はない。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，中国

7-13 セスジナガキマワリ *Strongylium cutellatum*

標本：1 ex 20070801 千種区星が丘元町；1 ex 20080706 昭和区滝川町（燈火に飛来）（写真7-13A）；1 ex 20100717 千種区東山公園（タラヨウの樹皮を齧っていた。）（写真7-13B）；1 ex 20110731 昭和区滝川町（燈火に飛来）

体長：10.5～13 mm。分布：本州・四国・九州，朝鮮半島，中国，台湾

8 ハムシダマシ科 Lagriidae

ゴミムシダマシ科に含めることもある。

8-1 ヒゲブトハムシダマシ *Luprops orientalis*

標本：1 ex 19900826 昭和区滝川町（赤褐色個体）；1 ex 19910721 昭和区滝川町；1 ex 199811 昭和区滝川町；1 ex 200608 昭和区滝川町；1 ex 200905 昭和区滝川町；1 ex 20100506 昭和区滝川町；1 ex 20120924 千種区星が丘元町（加賀谷みえ子採集）（写真8-1）；1 ex 20130209 昭和区滝川町；1 ex 201305 昭和区滝川町

体長：8～9 mm。全面に褐色細短毛を密生する。通常，黒褐色であるが，赤褐色の個体もある。石や落葉の下に見られるが，燈火にも飛来する。成虫で越冬する。和名はヒゲブトゴミムシダマシとしているものもある。分布：日本，朝鮮半島，中国，モンゴル，台湾，ネパール，ブータン，インドシナ

8-2 ハムシダマシ *Lagria rufipennis*

観察・写真撮影：1 ♀ 20100625 千種区東山公園（写真8-2A）；1 ♀ 20110628 千種区星が丘元町（写真8-2B：イタドリの葉上）

標本：1 ♀ 200608 千種区東山公園；1 ♀ 20080709 千種区東山公園；1 ♀ 20090619 千種区東山公園

体長：7～7.5 mm。全面に黄色細長毛を密生する。各種葉上に見られるが、今まで観察したのは全て♀であった。♂は触角が長いので容易に区別できる。分布：日本、サハリン

8-3 アカハムシダマシ *Arthromacra sumptuosa* *

標本：1 ex 20090429 昭和区八事本町興正寺（写真8-3A：背面，B：腹面）

体長：8.5 mm。ここでは今坂⁹⁾の分類に従ったが、アオハムシダマシ *A. viridissima*、アカハムシダマシ *A. sumptuosa*、アカガネハムシダマシ *A. decora*などを明確に区別することは困難で全て同一種と見做す考えもある。成虫はクリ、アカメガシワ等の花を訪れ、花粉を食べる。幼虫は様々な腐朽材を食べる¹⁰⁾。『愛知県の昆虫（上）』に名古屋市からの記録はない。分布：本州・四国・九州

9 クチキムシ科 Alleculidae

クチキムシは「朽木虫」の意で、幼虫は朽木や樹皮下に住む。

9-1 クチキムシ *Allecula melanaria*

観察・写真撮影：1 ex 20070924 昭和区八事本町興正寺（写真9-1A）

標本：1 ex 20070528 昭和区滝川町（写真9-1B）

体長：12 mm。マツなどの朽木に生息する。分布：日本

9-2 ウスイロクチキムシ *Allecula simiola* *

標本：1 ex 20110621 千種区東山公園（写真9-2）

体長：5.5 mm。『愛知県の昆虫（上）』には名古屋市からの記録はない。分布：本州・四国・九州

9-3 ホソアカクチキムシ *Allecula tenuis* *

観察・写真撮影：1 ex 20070924 昭和区八事本町興正寺（写真9-3A）

標本：1 ex 20140617 昭和区滝川町（写真9-3B）；2 ex 20140623 昭和区滝川町（死骸）

体長：7 mm。『愛知県の昆虫（上）』に名古屋市からの記録はない。小牧山が愛知県唯一の記録地である。分布：本州・四国・九州

9-4 クリイロクチキムシ *Borboresthes acicularis*

標本：1 ex 20060627 昭和区滝川町；1 ex 20100706 千種区東山公園（写真9-4）

体長：7 mm。分布：本州・四国・九州

10 ナガクチキムシ科 Synchronoidae

クチキムシに似るが、体が細長い。

10-1 クロホソナガクチキ *Phloeotrya rugicollis* *

標本：1 ex 19930523 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20020526 昭和区滝川町；
1 ex 20030517 昭和区八事本町興正寺；1 ex 20060528 昭和区八事本町興正寺（写真10-1）；1 ex 20130826 名東区藤巻町

体長：9～12 mm。『愛知県の昆虫（上）』に名古屋市からの記録はない。分布：日本、朝鮮半島、極東ロシア

11 ハナノミ科 Mordellidae

ハナノミは、「花蚤」で、蚤の体型に少し似ているが、蚤のように跳ぶのではなく、素早く飛び回る。小型で同定困難な種が多い。

11-1 ウスキボシハナノミ *Hoshihananomia kurosai* *

標本：1 ♀ 20110723 千種区東山公園（写真 11-1A：斜め側面，B：背面，C：腹面）
体長：6.5 mm。『愛知県の昆虫（上）』に記録はない。分布：本州・九州

12 カミキリモドキ科 Oedemeridae

カミキリムシに似て非なるものという意である。体液中にカンタリジン cantharidin を含んでいて、触れると水泡性皮膚炎をおこすものがある。

12-1 アオカミキリモドキ *Nacerdes waterhousei*

標本：1 ♂ 20090618 千種区星が丘元町（写真 12-1A）；1 ♀ 20110624 千種区星が丘元町（燈火に飛来）（写真 12-1B）

体長：13 mm。クリなどの花に集まる。燈火にも飛来し、皮膚炎を起こす「ヤケドムシ」の代表的存在である。分布：日本，朝鮮半島，サハリン

12-2 モモブトカミキリモドキ *Oedemera lucidicollis* *

観察・写真撮影：1 ♂ 20130427 千種区平和公園（シロツメクサ花上）（写真 12-2A）；1 ♀ 20130525 千種区平和公園（ヒメジョオン花上）（写真 12-2B）

標本：1 ♀ 200404 昭和区滝川町；1 ♀ 20120505 名東区牧野ヶ池緑地（写真 12-2C）；1 ♀ 20130420 千種区平和公園；1 ♂ 20130427 名東区猪高緑地

体長：6.5 mm。『愛知県の昆虫（上）』には名古屋市からの記録はないが、東山周辺の花上で普通に见られる。♂では後脚腿節が前脚・中脚と比べて太くなっているのも、腿太の名があるが、♀では前脚・中脚と変わらない。分布：日本

13 アリモドキ科 Anthicidae

名前の通り、アリに似ており、敏捷で、すばしこく歩き回る。

13-1 ホソクビアリモドキ *Formicomus braminus*

観察・写真撮影：1 ex 20140802 千種区平和公園

標本：1 ex 20130829 千種区平和公園（写真 13-1A：背面，B：腹面）

体長：3.5 mm。分布：本州・四国・九州

まとめ

名古屋市内で観察・採集したハンミョウ科1 (0) 種，オサムシ科10 (2) 種，ゲンゴロウ科2 (2) 種，デオキノコムシ科1 (1) 種，ハネカクシ科4 (1) 種，ナガハナノミ科1 (0) 種，ゴミムシダマシ科13 (5) 種，ハムシダマシ科3 (1) 種，クチキムシ科4 (2) 種，ナガクチキムシ科1 (1) 種，ハナノミ科1 (1) 種，カミキリモドキ科2 (1) 種，アリモドキ科1 (0) 種を報告した。このうち，括弧内は『愛知県の昆虫（上）』に名古屋市からの記録のないものである。

文 献

- 1) 新訂原色昆虫大圖鑑 第Ⅱ卷(甲虫篇) 北隆館 2007 (ISBN978-4-8326-0826-9)
- 2) 上野俊一, 黒澤良彦, 佐藤正孝編: 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ) 保育社 1985
- 3) 林匡夫, 森本桂, 木元新作編: 原色日本甲虫図鑑(Ⅲ) 保育社 1985
- 4) 愛知県昆虫分布研究会: 愛知県の昆虫(上) 愛知県 1990
- 5) ジャン=H・ファーブル, ポール=H・ファーブル: ファーブルの写真集 昆虫 新樹社 2008 (ISBN978-4-7875-8581-3)
- 6) 臼田明正, 岡田正哉, 穂積俊文, 安藤尚, 蟹江昇: なごやの昆虫 名古屋昆虫館 1989
- 7) 安富和男: 虫たちの生き残り戦略 中央公論新社 2002 (ISBN4-12-101641-6)
- 8) 内藤通孝, 舟木千明: 名古屋市における甲虫類の記録(1) 月刊むし 1991; 249: 40-41
- 9) 今坂正一: 日本産アオハムシダマシ図鑑 月刊むし 2006; 421: 20-35
- 10) 鈴木知之: 朽ち木にあつまる虫ハンドブック 文一総合出版 2009 (ISBN978-4-8299-0140-3)

名古屋東山周辺の昆虫相

1-1A



1-1B



2-4



1-1C



1-1D



2-1



2-5



2-2



2-3



2-6



2-7



2-8



2-9



3-1



3-2



2-10



4-1



5-1





7-11A



名古屋東山周辺の昆虫相

7-9B



7-9C



7-11B



7-11C



7-12



7-13A



7-13B



8-1



8-3A



8-3B



8-2B

8-2A



9-2



9-1A



9-1B



9-4



9-3A



9-3B



10-1



11-1A



11-1B



11-1C



12-1A



12-1B



12-2A



12-2B



12-2C



13-1A



13-1B

